

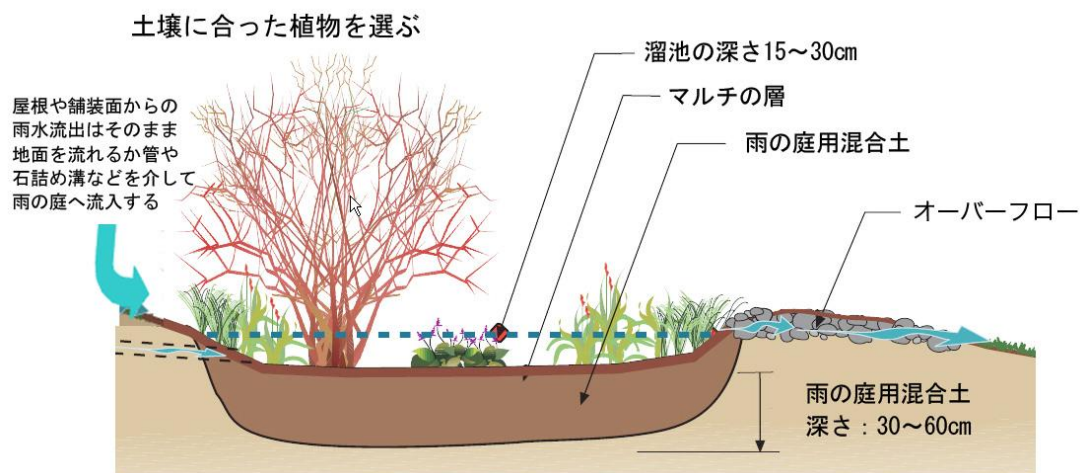
ゼリプランツとはなにか

植物の選択は、雨の庭に関わらず通常の庭やランドスケープアーキテクチャー全般の計画設計に際し、重要な鍵をにぎっている。持続可能な緑化をしたいと思っても、そのために、どのような植物を選んだらよいのか分からないことがある。また、美しいけれども維持が難しい植物を植えてはすぐに無惨な姿をさらしてしまう。そのようなときに有用なのがゼリプランツである。JXDA は、手間のかからない水やりの少なくて済む植物で、雨の庭の環境にも適応する品種を日本におけるゼリプランツとして認定した。

ゼリプランツは、主にゼリスケープ（乾燥景）を造る際に用いられてきた耐乾性を備えた植物であるが、日本の気象を鑑みて、耐寒性と耐暑性をそなえながら、それぞれの都市の環境に耐えるものである。また、屋根や硬質舗装面の上を流れ去る雨水を取りこんで、ろ過浸透させる雨の庭の乾湿入り混じった環境にも耐える。この点で、単なる多肉植物などの乾燥のみに耐える植物とは異なっている。

雨の庭とはなんだろうか

ところで雨の庭とはなんだろうか。それは、屋根や道路、広場などの硬質な表面を流れて下水管へ入ろうとする雨水を集めてできるだけ地面に浸透させることで処理しようとする庭の形をした機能設備である。主に土壌と植栽、マルチングの3つの構成要素から出来ていて、浅い窪地の形をしており、雨が降ると庭の底に雨水が溜まるようになっている。この水はゆっくりと、降雨後24時間から48時間をかけて雨の庭に浸透するが、豪雨などで雨が集まり過ぎた場合はすぐさま既存の下水管へと接続するオーバーフロー機能も設けられている。



ゼリプランツはこのような雨の庭に植えることのできる植物である。